

# 嚥下内視鏡検査 説明書

えんげないしきょうけんさ  
嚥下内視鏡検査とは

食<sup>えんげ</sup>べることが難しくなる障害があります。特に飲み込み（嚥下）の機能が低下する障害を摂食・嚥下障害と呼びます。食べ物や水が気管に入ってしまった（誤嚥と呼びます）、ムセたりするのです。摂食・嚥下障害は外から診察することが難しい場合があるので、鼻から通して診察する内視鏡カメラを用いた検査が有効です。これを嚥下内視鏡検査と呼びます。

今回、内視鏡検査を行う目的は、次の内容を検査するためです（チェック）

- ☐ 摂食・嚥下障害の有無を評価します。
- ☐ 誤嚥の有無を評価します。
- ☐ 安全にとることができる水分や食物を見つけます。
- ☐ 正しい食事の姿勢を見つけます。
- ☐ 嚥下のための訓練を選び、また効果を判定します。

## 検査の手順

鼻からファイバースコープ（内視鏡）を入れ、喉の奥を観察します。水や食品を何種類か摂取して頂き、食事の状態や食べる機能を評価します。検査結果は録画して分析します。映像は教育・研修・研究に使用することがあります。

## 検査の危険性

内視鏡が鼻を通過する数秒、ツンとした刺激を感じることがあります。検査食品を少量誤嚥する可能性があります。安全に配慮した方法で行います。稀に鼻出血することがありますが、止血可能で少量です。

## 準拠するガイドライン

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会の標準手順に則って実施します。